

世界規模の課題である地球温暖化問題への取り組みで、日本がリードする省エネルギー技術が重要性を増している。企業活動においても省エネ技術の導入や開発は、温暖化の原因物質である二酸化炭素(CO₂)の排出量を抑制するだけでなく、エネルギーコストを削減し競争力を高めることにつながる。この省エネ技術のカギの一つとなるのが、熱の上手な利用―「エレクトロヒート技術」だ。

北海道畜産公社

北海道畜産公社(札幌市中央区、山内啓二社長、011・242・4129)の道央事業所早来工場(北海道安平町)は、北海道の強みである「食」を食肉



～エレクトロヒート技術最前線～ 1

工場排熱利用し温水製造



加工で支える。主に牛の管理が重要。食肉のといった「大動物」や鮮度を維持する冷却な豚といった「小動物」などで厳格な温度管理が求められる。衛生環境や部分肉加工により良質な食肉を提供する。食肉加工は温度や衛生

ヒートポンプで重油削減

回収システムなどを使用する。熱回収し、温水を製造し、高温水を用いる。エレクトロヒートポンプを導入したヒートポンプを導いたエネルギーの効率化が欠かせない。当初は汚水処理棟の曝気槽で生じる熱を回収する案を想定した。本館の熱回収システムが、同時に冷凍機械室の冷凍機冷却用の媒体「温プライン」の熱に高効率貫流ボイラも設置する。15年度は重油量を前

【事業所概要】▽所在地 北海道安平町 遠浅695、0145・222・3911▽ 主要生産品目 肉畜のと畜解体処理など▽ 年間エネルギー使用量(15年度) 113082キロワット(原油換算)▽年間CO₂排出量(同) 118231ト